

教師教育のリアリスティックアプローチの展開

武田信子¹⁾

本稿は、文部科学省科研費基盤研究（C）（課題番号 25381048）「理論と実践をつなぐリアリスティック教師教育の導入と効果に関する研究」（研究代表者 武田信子）による観察及び実践研究の報告である。

本稿の目的は、日本においてリアリスティック教師教育を教員養成及び教員研修に導入する際の課題を明らかにすることである。導入への土壌を作るために3つの角度からアプローチを行った。すなわち、我々は、これまでの海外の実践例に学び、日本で導入の実践を試行し、オランダにリアリスティック教師教育実践の土壌を作った実践家にインタビューをし、討議した。その結果をそれぞれ研究分担者と協力者がまとめた。

坂田論文は、オランダのユトレヒト大学を中心に提唱されたリアリスティック教師教育の歴史と概要を紹介した上で、オランダ以外の初のリアリスティック教師教育の実践例であるアメリカ南オレゴン大学の教員養成の実践を観察した結果について報告し、リアリスティック教師教育に基づく教員養成の、日本への応用可能性と問題点を指摘したものである。

また、矢野論文は、リアリスティック教師教育を日本の小学校の現場に導入した挑戦的な実践の報告であり、同じ講師が条件の異なる三校の校内研修にリアリスティック教師教育を導入試行した結果を整理して、今後の実践への具体的示唆を記述したものである。

一方、武田・横須賀論文は、ユトレヒト大学でのリアリスティック教師教育による教員養成が始まるさらに20年前に遡り、オランダにおいて教員養成の変革が行われた1980年前後の教師教育者たちの挑戦について、当時の関係者にインタビューを実施した結果を交えて現在の日本の教師教育への今後の導入を検討する資料としてまとめたものである。

報告の構成

◇リアリスティック教師教育の展開

坂田哲人²⁾

◇日本における学校現場への RTE 導入試論

～相模原市における小学校校内研に対する試行を事例に～

矢野博之³⁾

◇オランダにおける教育方法の開発プロセスからの示唆

武田信子
横須賀聰子⁴⁾

1) 武田信子（本学人文学部教授）

2) 坂田哲人（青山学院大学情報メディアセンター助教）

3) 矢野博之（大妻女子大学准教授）

4) 横須賀聰子（水戸こどもの劇場副代表）